

(様式1-1表)

☒ 1	学位論文その他の研究論文 →選考基準第5条（1）の業績に該当	☐ 2	大学院設置基準第16条に定める特定の課題についての研究の成果（修士課程の修了要件に関する事項のため、博士（後期）課程は非該当） →選考基準第5条（2）の業績に該当	☐ 3	大学院設置基準第16条の2に定める試験及び審査の結果（博士前期課程の修了要件に関する事項のため、博士（後期）課程は非該当） →藝大で該当する業績はありません。
☐ 4	（専攻分野に関連した）著書、データベースその他の著作物（1及び2に掲げるものを除く。） →選考基準第5条（5）の業績に該当	☐ 5	発明 →選考基準第5条（7）の業績に該当	☐ 6	授業科目の成績 →選考基準第5条（3）の業績に該当
☒ 7	研究又は教育に係る補助業務の実績 →選考基準第5条（6）の業績に該当	☒ 8	（専攻分野に関連した）音楽、演劇、美術その他芸術の発表会における成績 →選考基準第5条（4）の業績に該当	☐ 9	（専攻分野に関連した）スポーツの競技会における成績 →藝大で該当する業績はありません。
☐ 10	（専攻分野に関連した）ボランティア活動その他の社会貢献活動の実績（公益の増進に寄与した研究業績） →選考基準第5条（8）の業績に該当				

私〇〇〇〇（氏名）の博士課程での業績を以下のとおり申請します。

1. 博士課程での制作および研究活動の集大成として、博士論文と研究作品を提出。研究作品は、2019年12月の博士展で大学美術館にて展示。また〇〇〇財団の〇〇賞を受賞し、買上作品となった。
2. 2019年〇月に開催された〇〇〇〇コンクール（〇〇主催）にて、優秀賞に入賞。このコンクールは歴史が古く、ここで入賞したことは〇〇分野で権威あるコンクールで認められたということになる。
3. 2018年〇月〇日から同〇日まで、〇〇画廊にて個展を開催。この展示が評価され、専門誌の『月刊〇〇』（2018年〇月号）の記事に批評が掲載された。
4. 2018年〇月から2019年〇月まで、大学においてティーチングアシスタントを勤め、授業補助等の業務を行った。特に〇〇〇〇（具体的事項）の点で、研究室の運営に貢献した。

- 下記【記入上の注意】4.を参照。
- 別紙の「業績評価書」に記入した各業績の内容について、800字程度でまとめること。字数に問題がなければ、様式1-2と同じ内容を記載しても構わない。
- 業績一つずつについて、箇条書きにしても可。
その場合、「業績評価書」に記載した業績の順序および内容と、この記載は必ず一致させること。

- 該当する方を■にする
- 「返還に関する手続」が済んでいない人は、
大学から推薦できません。
返還手続は期限内に済ませること。

【返還誓約書の提出について】

該当するいずれかの□を■にすること。（提出予定の場合は提出予定年月も記載）

- 提出済み □ 提出予定（令和 年 月 大学へ提出予定）

【口座振替（リレー口座）加入申込の手続きについて】

該当するいずれかの□を■にすること。（手続き予定の場合は予定年月も記載）

- 手続き済み □ 手続き予定（令和 年 月 ）

提出または手続きが確認できない場合、申請を受け付けません。

【記入上の注意】

1. 「課程」欄は、該当するいずれかの□を■にすること。
 2. 「現住所」は大学へ届け出ている住所を記入すること。貸与終了後に連絡先が変更となる場合、返還のてびき（23頁）を参照のうえ、必ず5月末までに機構に届け出ること。
 3. 「教育研究活動等の業績」欄は、該当する□を■にすること。ただし、専攻分野に関連した業績に限る。
 4. 教育研究活動等の業績について、「特に優れた業績の要旨」欄に要旨を800字程度で記載すること。
 5. 大学院の成績証明書、特に優れた業績であることを証明する資料及び業績一覧表を必ず添付すること。（成績証明書は「教育研究活動等の業績」欄で「授業科目の成績」を選択していない場合でも提出が必要。）
- （注）これは様式1-1（裏面）です。印刷は、様式1-1表裏の両面刷りとしてください。